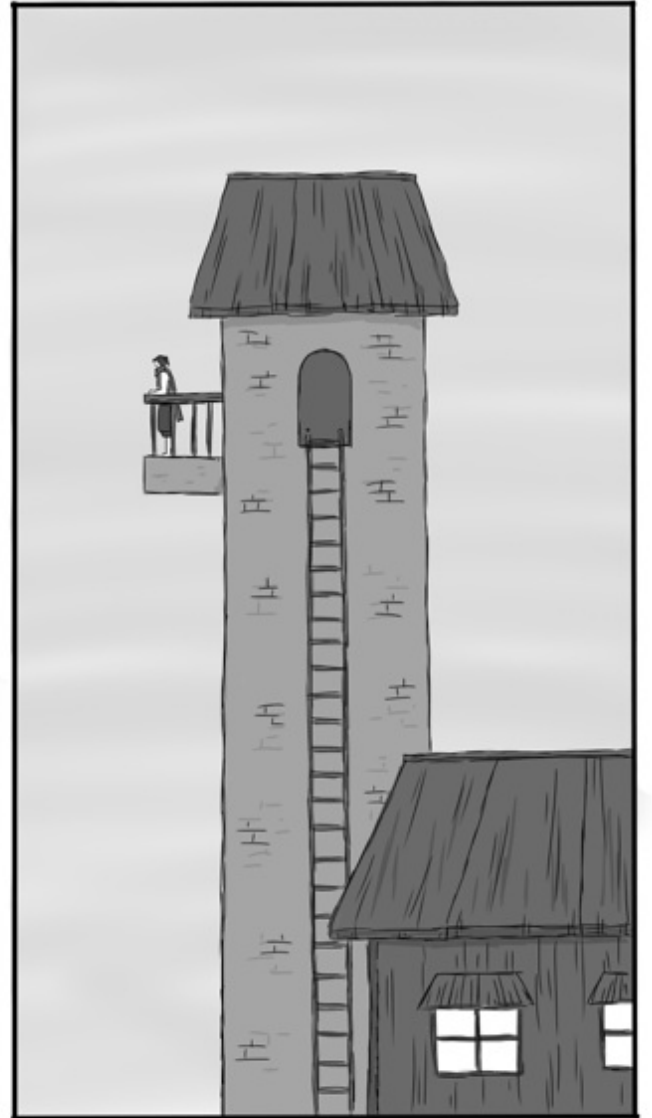




魔法使いと 三人の助手 ⑦

夢使いの物語②

少年は
夢を見た







あの竜は

倒さなきゃ
ならない

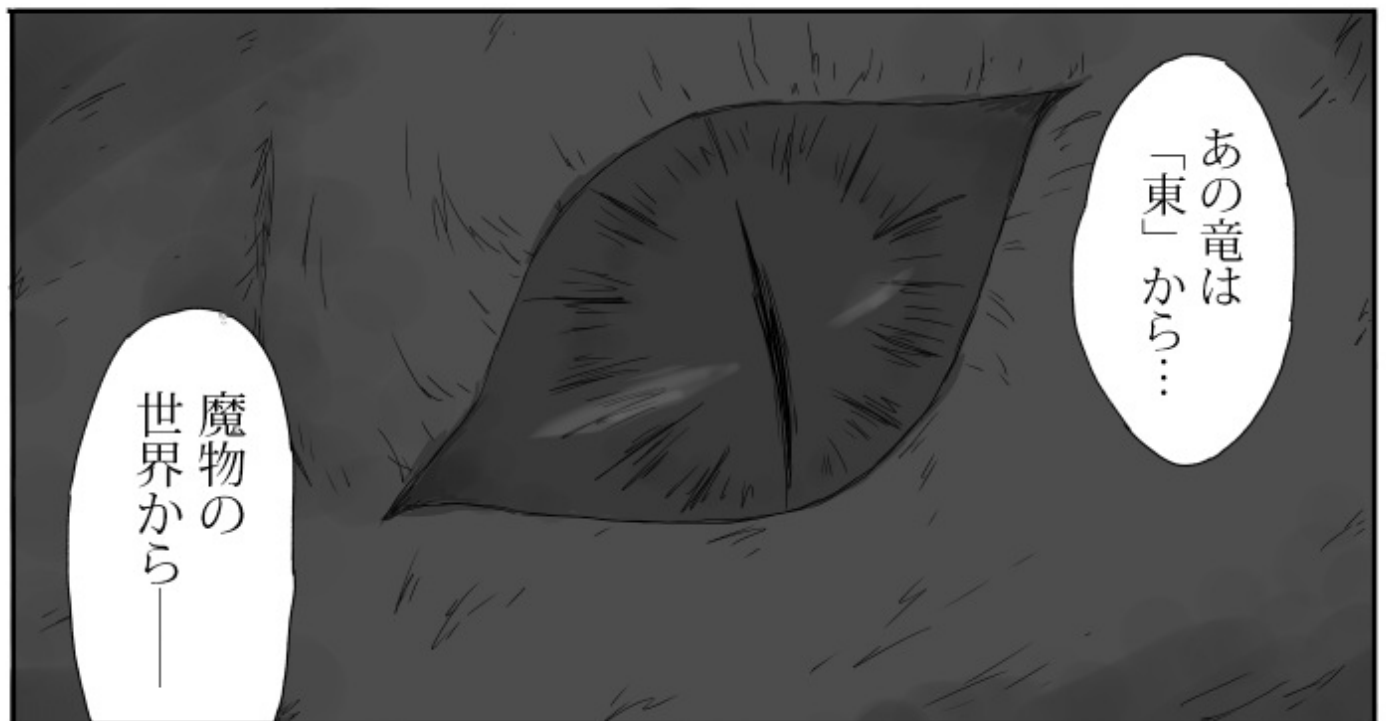


で…でも
竜って

この国を
守ってくれてる
ハズですよ

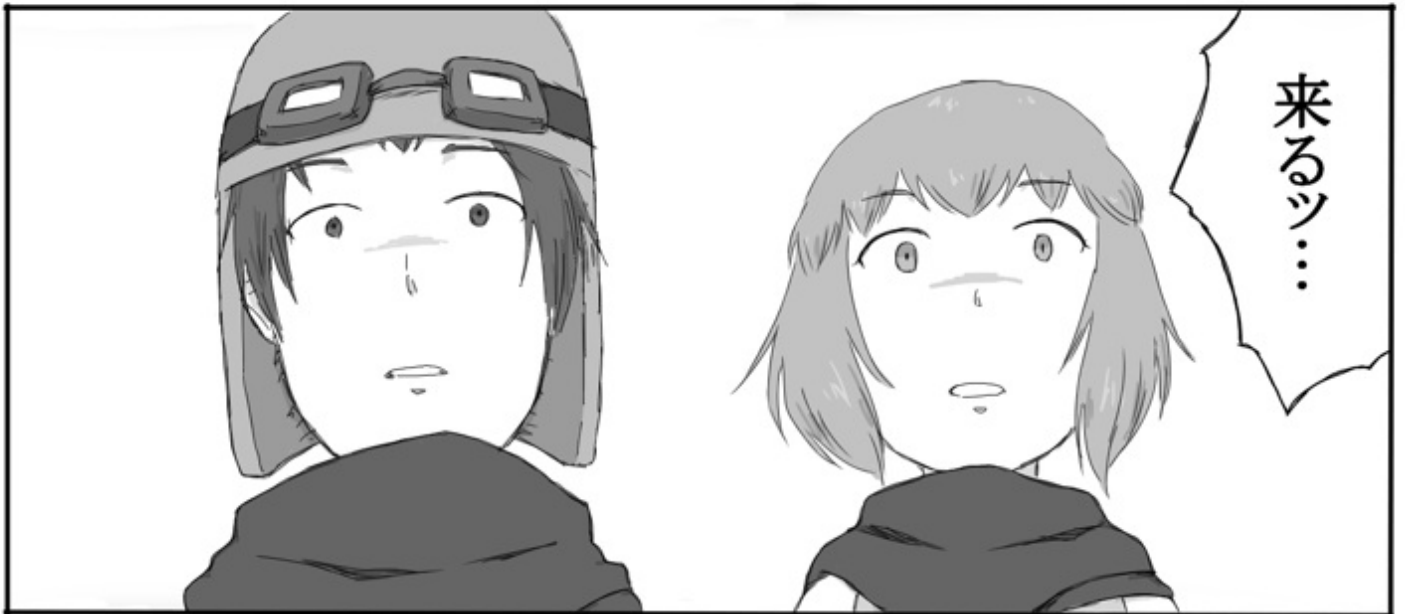
私たちに
ご先祖様
とっては
でもあるし…

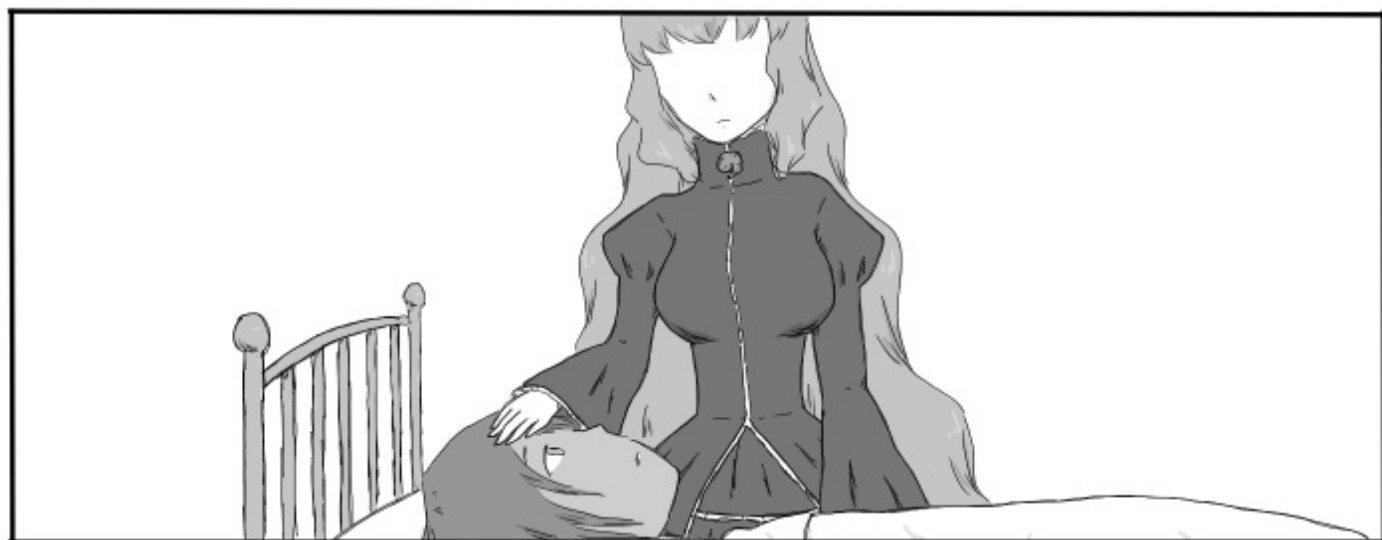
…でも
それは
竜の国での
話だ

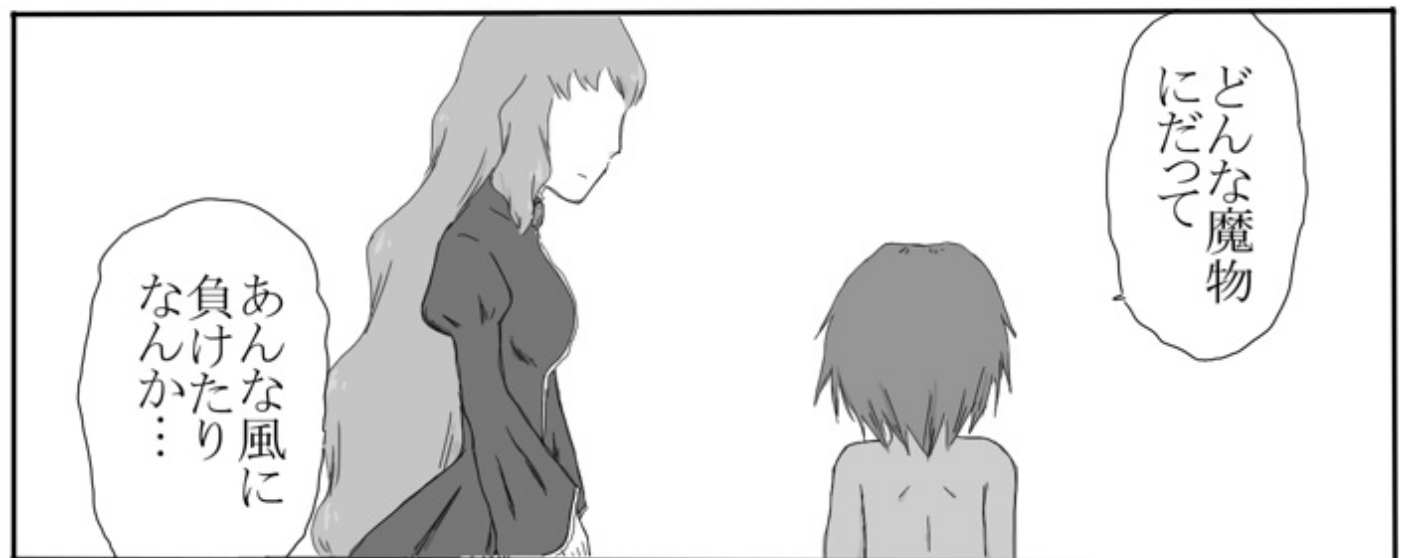


あの竜は
「東」から…

魔物の
世界から—



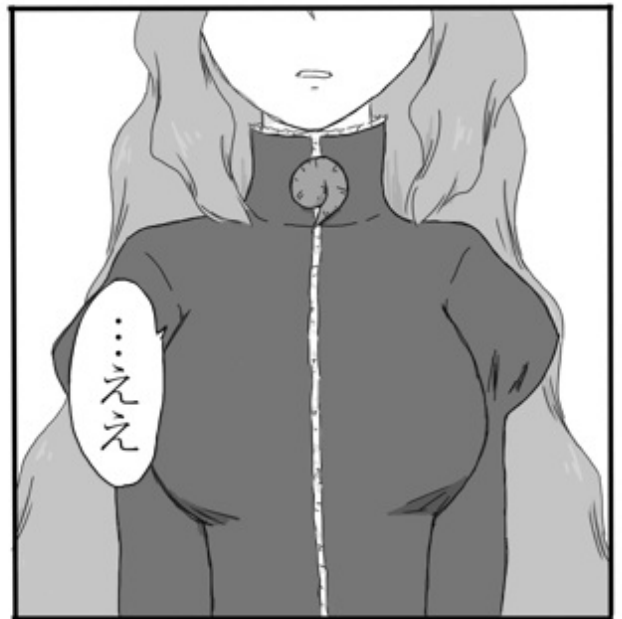






確かに
竜人隊の
みんなは

強いけれど



…ええ



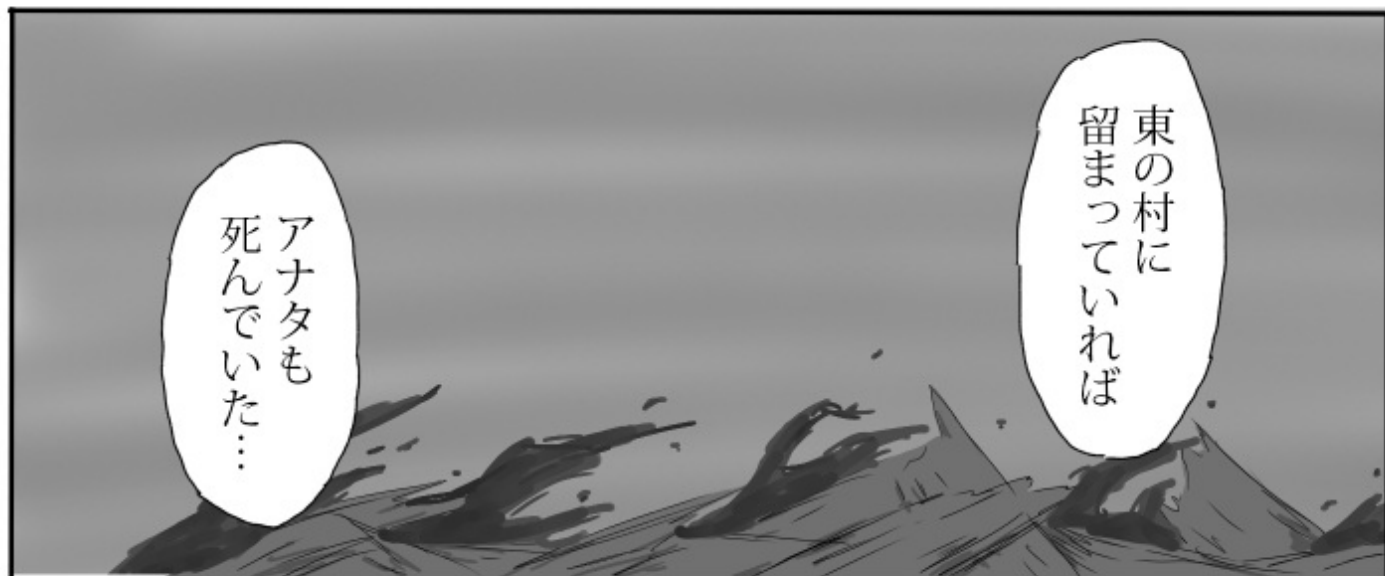
その竜人隊でさえ
敵わないような
魔物が

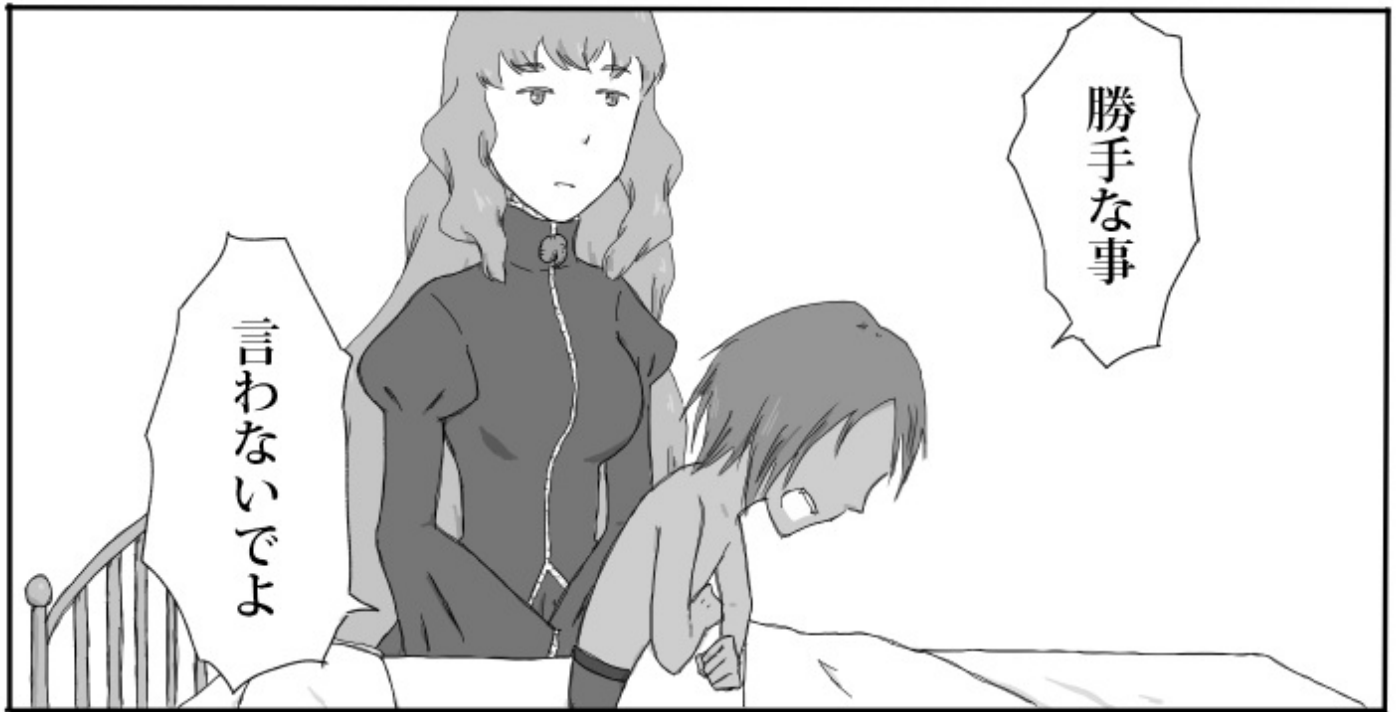
魔界に
棲み始めて
いる…



だから
ワタシは

あなたを
ここへ呼んだの





勝手な事

言わないでよ




また
会えるって

思ってたのに



ボクがもう
二度とみんなに
会えなくなるって

分かってて
呼んだんですか
師匠



…ごめんなさい
地竜くん

ワタシは



ある人が遺した
願いを

叶えなきやいけないの

魔法使いと 3人の助手 ⑦

夢使いの物語②



少女は



悪夢に
悩まされていた

東から現れる
強大な魔物



滅びゆく
世界――

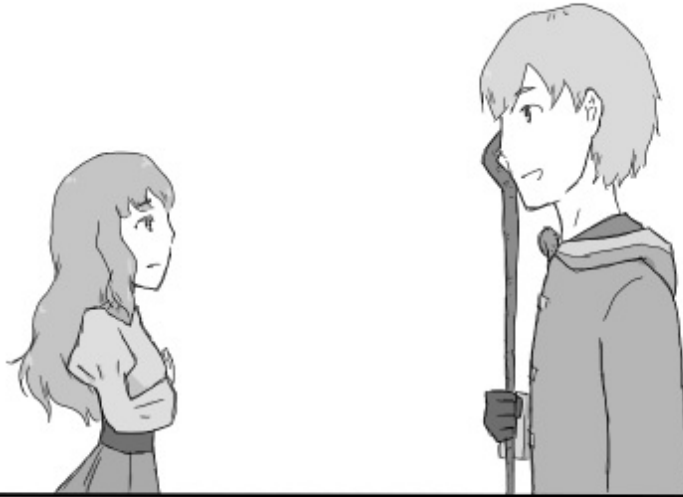
少女の住む町を
訪れた



若い旅の
魔道師は

少女の
悩みを聞き

もうその夢を
見なくて済むように
してやると言った



魔道師には
夢使いの力が
あった

少女の夢を覗いた
魔道師は



少女もまた
夢使いとしての
力を持ち

その夢が
未来を示している
事を知った



残念だけど



今すぐに
君をその夢から
救う事はできない



夢の魔物を
倒すために

君の力が
必要なんだ

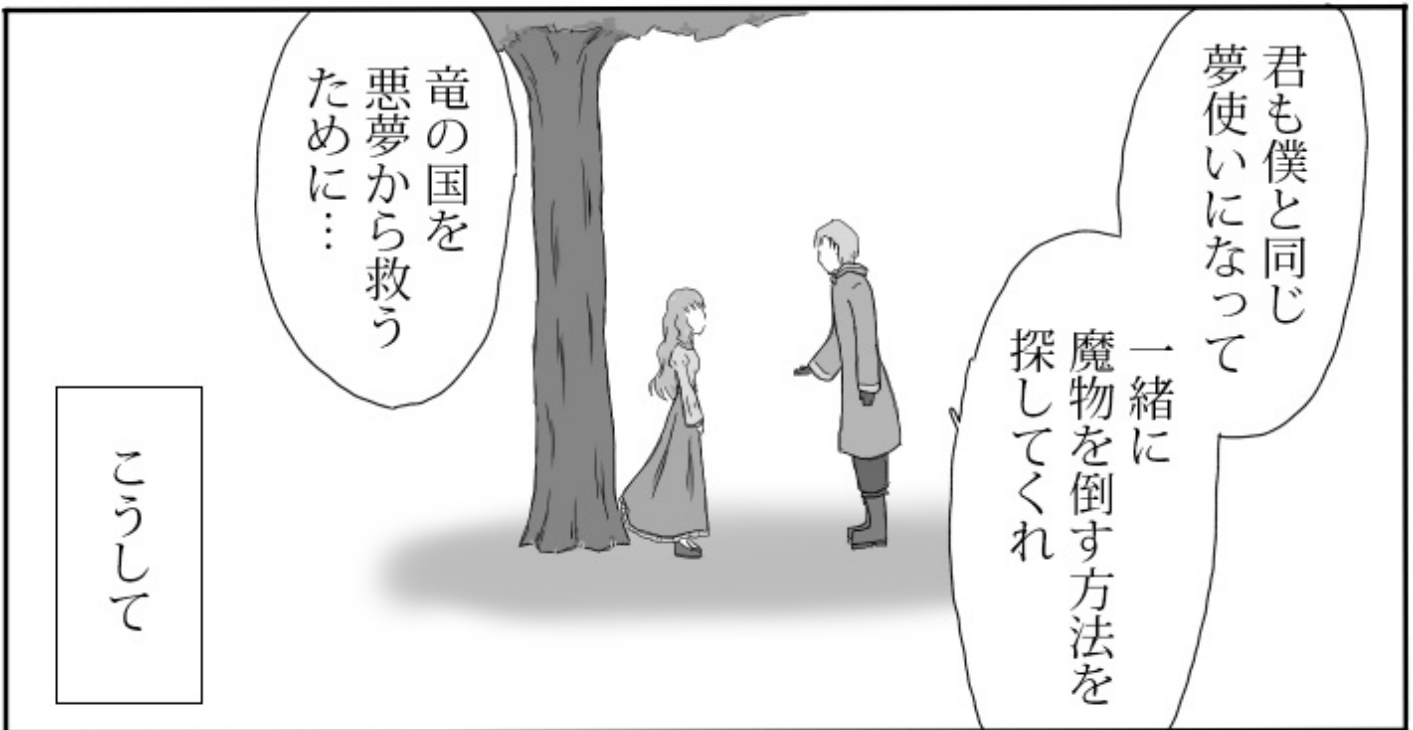


君も僕と同じ
夢使いになって

一緒に
魔物を倒す方法を
探してくれ

竜の国を
悪夢から救う
ために…

こうして



少女は魔道師の
教え子になり



夢使いになった

しかし

夢が少女に
告げる未来は



竜の国の破滅
ばかりであった

魔道師は少女を
励まし続け



いつしか二人は
惹かれ合うようにな
っていた

やがて

二人は
夫婦になり

一人の男の子を
授かったが

竜の国を
救う方法は


見つからぬ
まま――

ある時

ワタシは

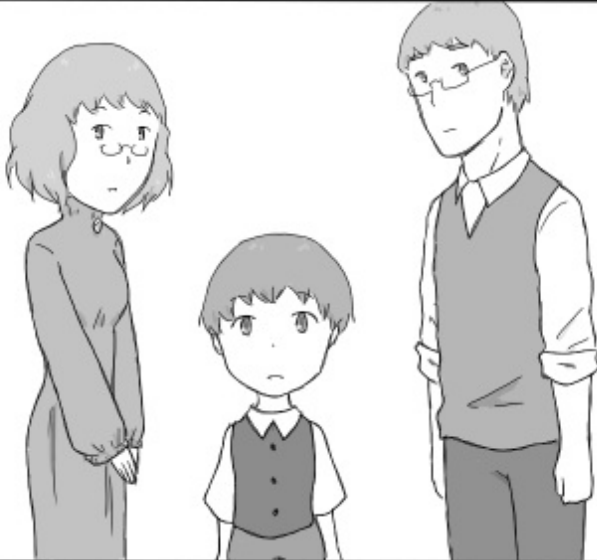
重い病に
かかったの

命の助からない
病に……



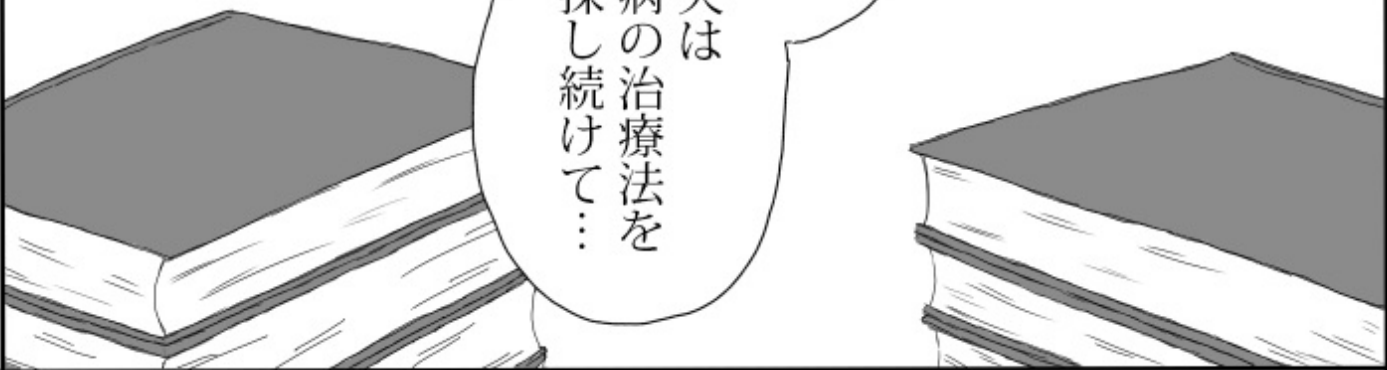
夫はワタシに
時止めの魔法を
かけて

病の進行を
止め――



幼い息子を
二人の親友に
託して

旅に出たの



それから
何年もの間

夫は
病の治療法を
探し続けて…



西の果ての

この館に
辿り着いたの



館は無人だった
けれど

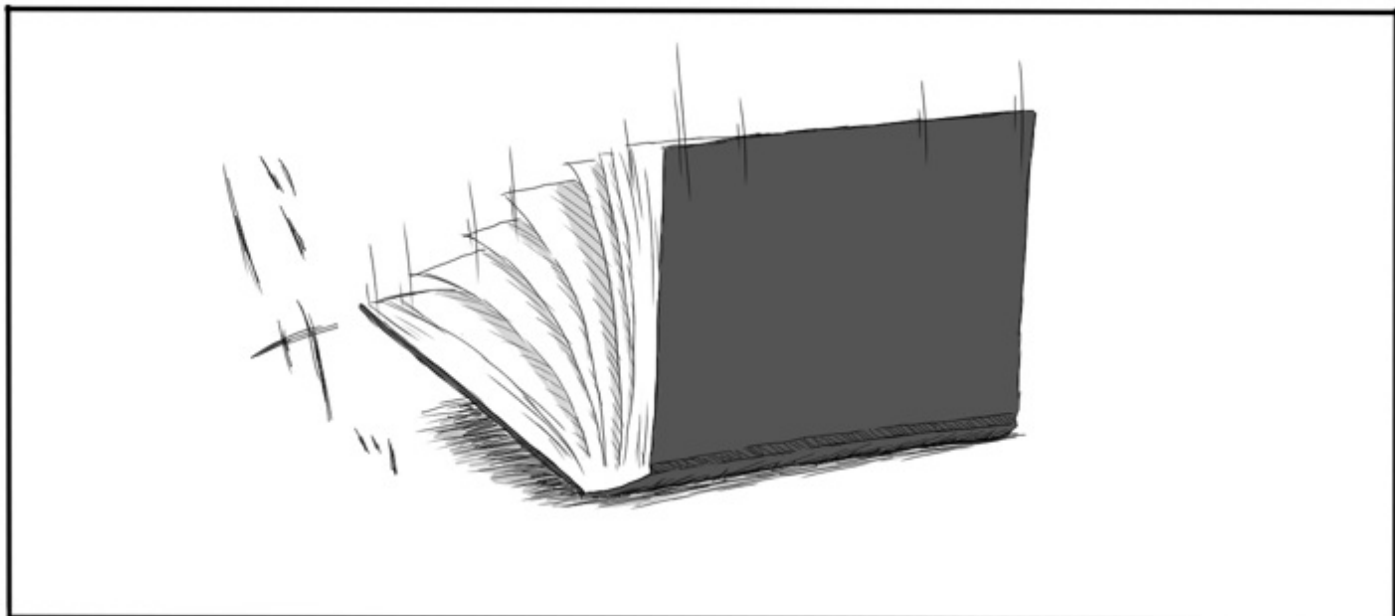
夫は書庫で
探していた本を
見つけた！

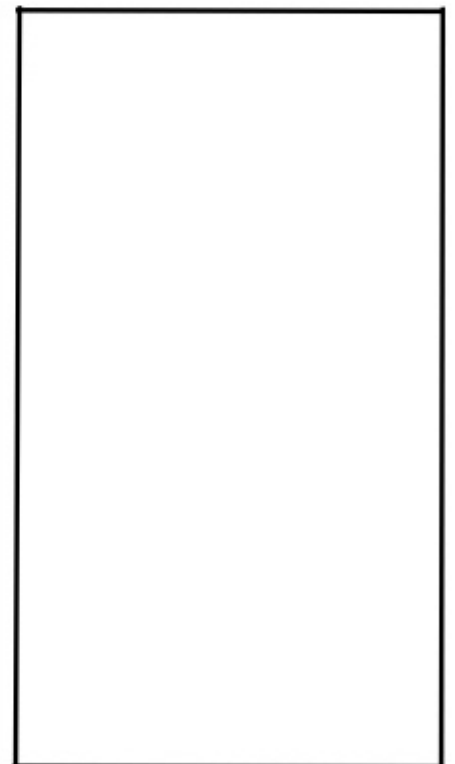


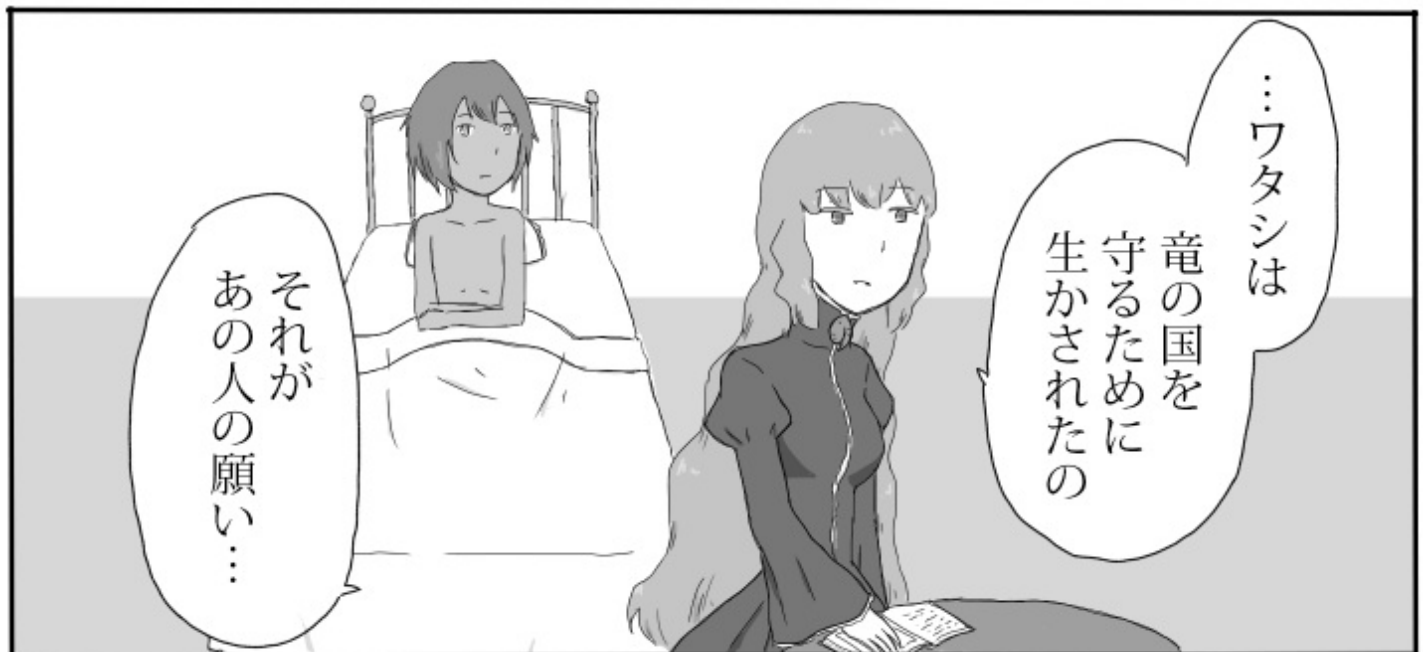
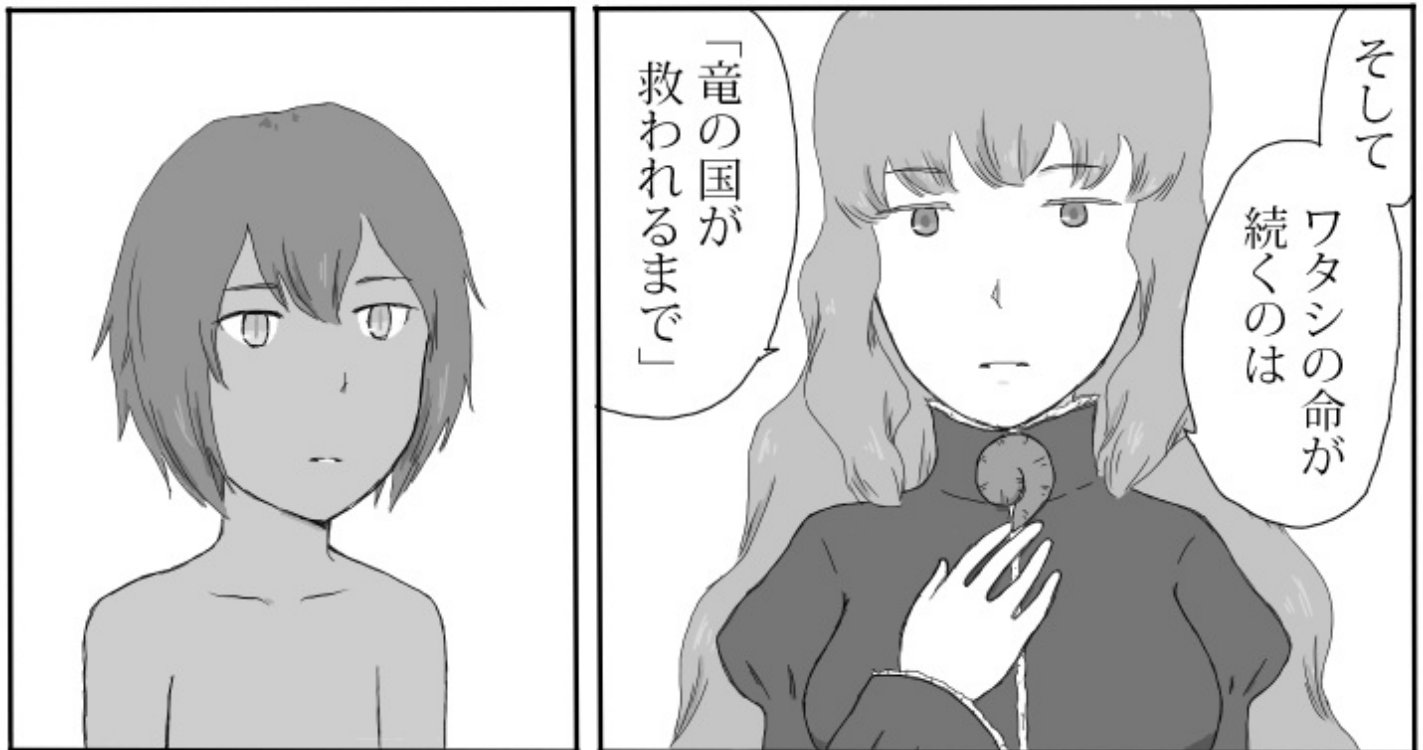
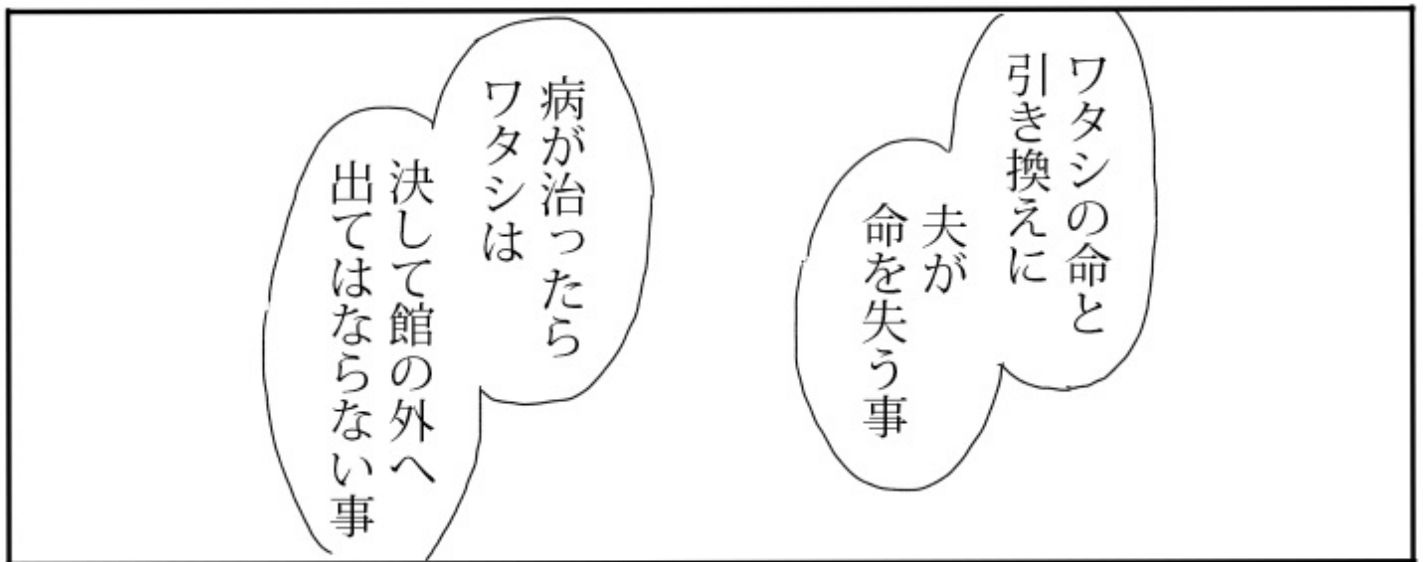
その本は

対価を払う事で
あらゆる病を
癒す事のできる

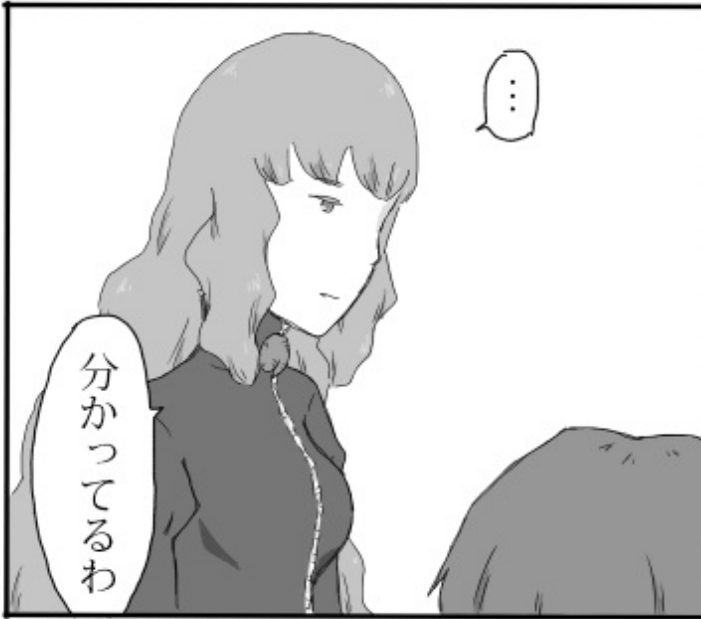
契約の書
だったの



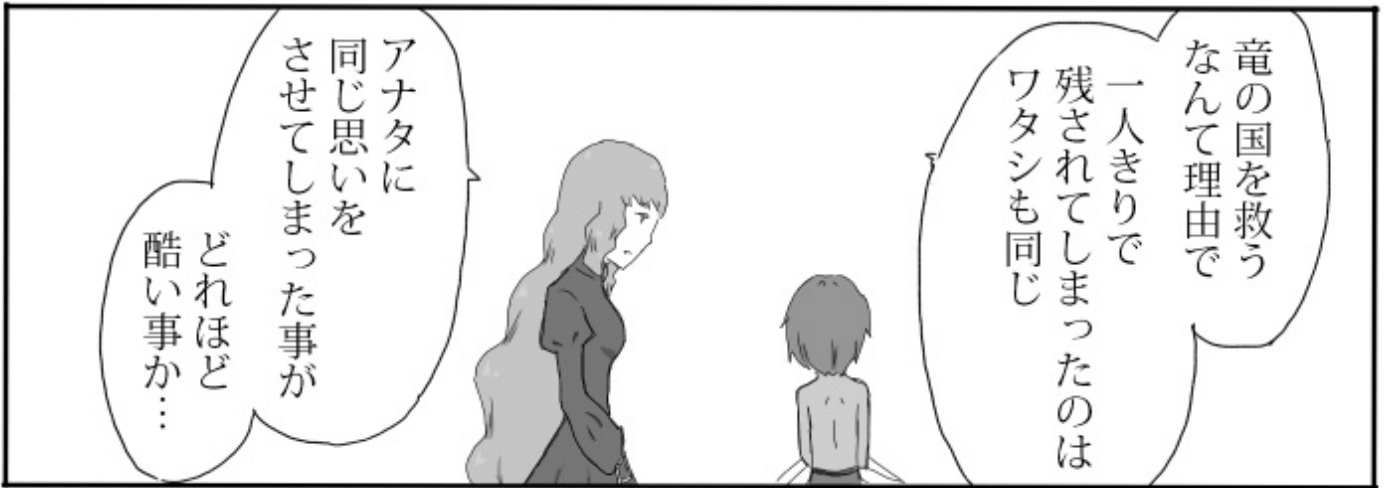








分かってるわ



竜の国を救う
なんて理由で
一人きりで
残されてしまったのは
ワタシも同じ

あなたに
同じ思いを
させてしまった事が

どれほど
酷い事か…



もう
会いたい人には

会えないのに

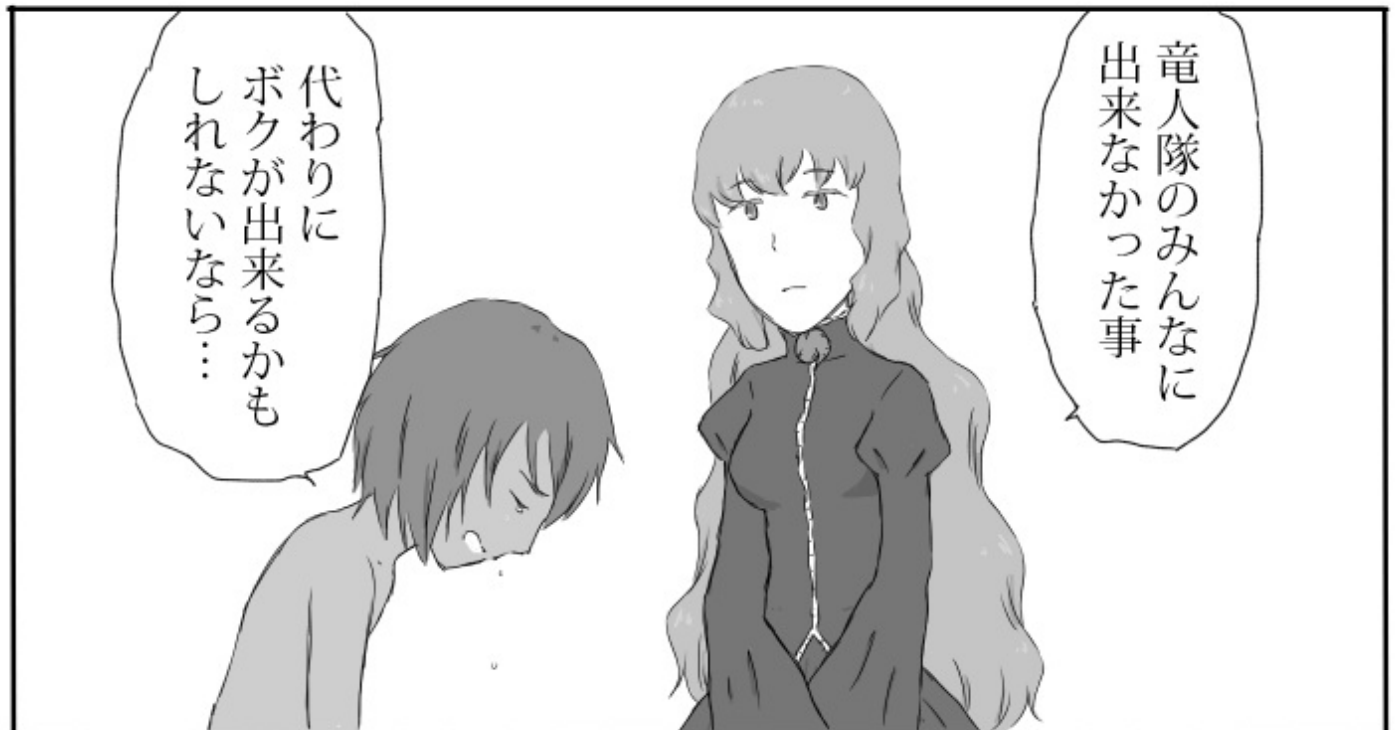


…そうだね

この国を
救うなんて

そんな事
何になるんだよ

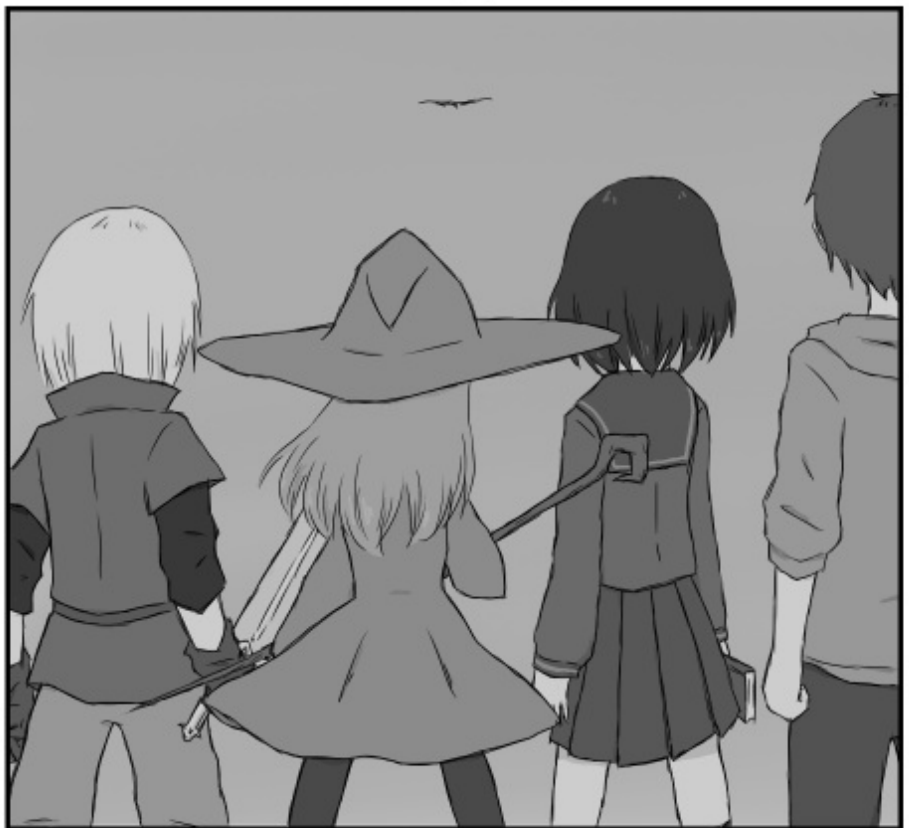


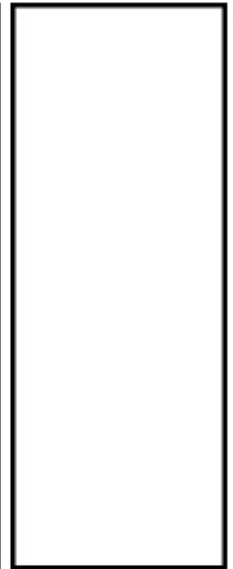


ありがとうございます
地竜くん



少年は
夢を見た





俺は今

ヨウの魂を
借りてるんだ







頭の中で
そう声がして

気がつくと
体が勝手に
動いて…



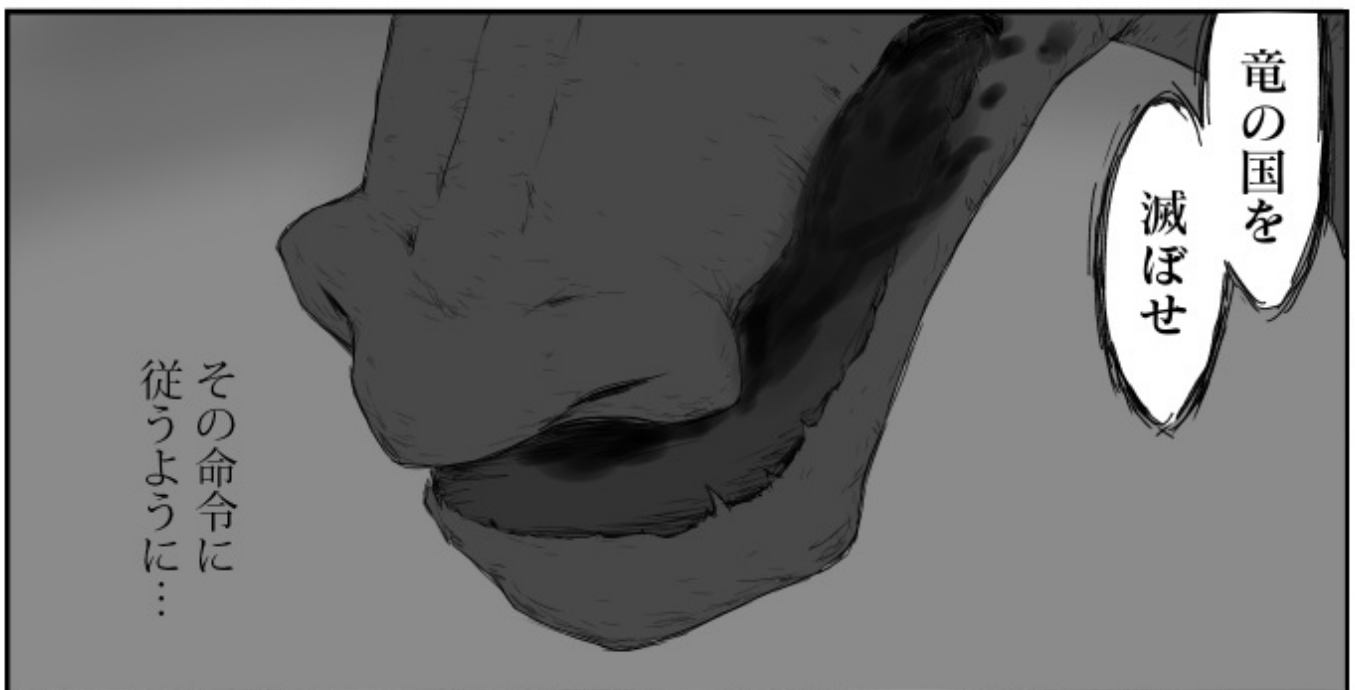
行け



西へ向かって
飛んでいた



俺は



竜の国を

滅ぼせ

その命令に
従うように…





ヨウを見た瞬間

俺は



何故だか
激しい憎しみを
感じて

ヨウを襲おうと
していた



憎しみ…？

もちろん
それは

もう一つの意思の
感情なんだろう

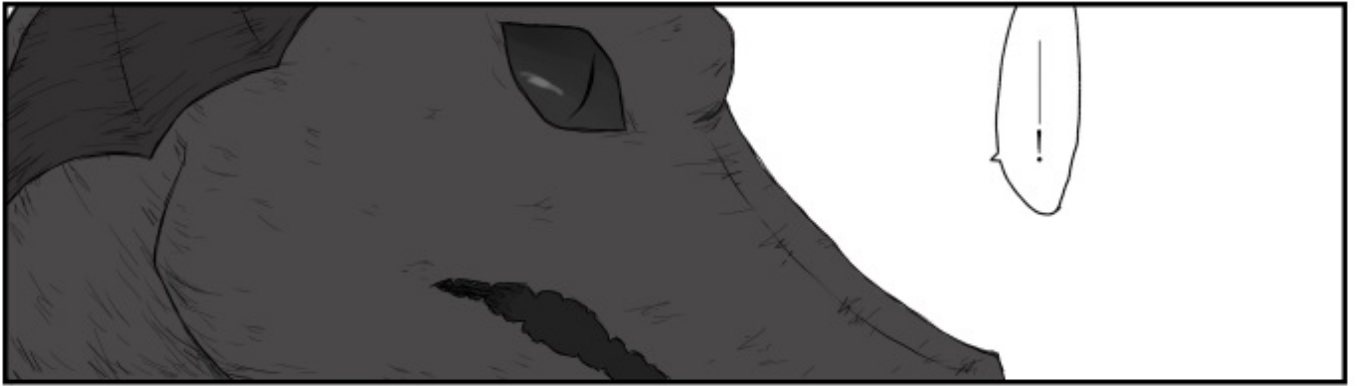
俺がヨウに
会ったのは
その時が初めて
だからな

ヨウは左手に
剣を持っていた



それを
かざすと

剣が
光り始めて…



俺を操っていた
もう一つの意思が
どこかに消えて

俺はヨウを
襲わずに済んだ











嫌だツ



僕にはそんな事
できない…!!



ヨウは
最後まで

自分から
俺を刺そうとは
しなかった



その剣で
何かを殺して
しまうのが

怖いと…

…







魔法使いと 3人の助手 ⑦

夢使いの物語②



つづく

魔法使いと3人の助手7 夢使いの物語②

<http://p.booklog.jp/book/102744>

著者 : umikingyo

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/umikingyo/profile>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/102744>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブックログ